

自己評価報告書(最終報告)

報告者

学校臨床実践コース
／末内 佳代

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

事例研究を主体とした、共通・専門・実習科目の体系化を目指す。

①学校臨床実践コースは、共通科目の「生徒指導教育相談に関するケースカンファレンス」、専門科目の「生徒指導・教育相談の実践と課題」・「学校臨床実践事例研究」において事例研究を行ってきた。これらの授業における成果を踏まえ、筆者は、実習校における学生の児童生徒への個の関わりに対してスーパーヴィジョンを行い、事例検討会に参加してきた。この授業の流れを今年も実践したいと考えている。

②さらに、今年は、これまでの学校臨床実践コースにおいて学生と筆者が実践してきた「全ての子どもに通じる心と学習の支援」の取組を学校現場との連携から教育委員会及び教育研究所との連携へと拡げていきたい。

2. 点検・評価

①実習校4校全てにおいて事例検討会に参加することができた。今後は、児童生徒の関与観察ができる機会をさらに増やし、事例検討会が学校臨床に「いかに役立つか」を目標に取り組んでいきたい。

②「学校におけるユニバーサルデザイン」の成果は、実習校2校において、学校現場での実践として、パンフレットにすることができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

①学生のカウンセリング等のスーパーヴィジョンを行う。

②学生の実習校(置籍校)に積極的に出向き、学生と実習実施責任者及び実習実施担当者を「つなぐもの」としての役目を果たしたい。

③コラボレーションオフィスコーディネーターとして、教職大学院の学生全体の教育・学生生活について、全体会や週録等を利用して、学生の意見を聴取し、大学当局にも協力を得て、教育成果を上げることができる環境整備を支援していきたい。

2. 点検・評価

- ①学生に対して、週に1回、1年次は合同で2年次は個別にスーパーヴィジョンを実施した。
- ② 実習校に訪問し、実習校の課題と学生のニーズが一本化された実習課題を設定することに努めた。実習評価並びに終了後の評価判定プレゼンテーションにおいては、実習実施責任者(学校長)から高い評価を得た。
- ③「異校種フィールドワーク」は無事に終了した。授業評価を分析し、学生のニーズである「異校種フィールドワークを1年次の9月に実施する」という案を提供することができた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

研究テーマである「全ての子どもに通じる心と学習の支援」に関する成果と課題を論文等にまとめる。

2. 点検・評価

これまでの実践を論文(共著2)と著書(共著1)にまとめることができた。

II-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①コラボレーションオフィス・コーディネーターとして、学生の教育・学生生活支援及び異校種実習統括の職務を遂行する。
- ②FD委員会委員として学生のニーズが反映された教育課程の充実・改善に努める。

2. 点検・評価

①コラボレーションオフィス・コーディネーターP2担当として、学生の教育・学生生活支援と異校種フィールドワーク統括の職務を遂行できたと考える。

②FD委員会委員として得た知は「評価とは可能性を見出すためのもの」である。評価には必ず人と人との関わりが裏打ちされるものであり、数値のみのものではないということを改めて認識した。教職大学院の教員としてこれからも、学生や学校現場のニーズを把握し、授業改善に努め、大学運営の一助となるよう取り組んでいきたい。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①三重県鈴鹿市立鈴峰中学校, 徳島県美馬市立脇町小学校, 徳島県阿波市立久勝小学校, 徳島県阿南市立大野小学校との連携による教育研究活動
- ②教育支援講師登録
- ③鳴門教育大学心理教育相談室相談員 等により社会との連携に努める。

2. 点検・評価

- ①関係者の協力により、実習校での実習に向けてのプレゼンテーション、中間報告(事例検討会を含む)、成果報告という活動の流れが、全ての実習校で定着しつつある。実習の成果が保持・改善できるようにフォローアップにも努めたい。
- ②中間報告に述べたとおり教育支援講師の活動に参加することができた。来年度も要請があれば支援活動を行いたい。
- ③平成24年度鈴鹿市教育委員会と鳴門教育大学の連携による教育改善活動は好評であり、筆者担当の連携校からは来年も支援の継続を要請されている。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

先述した通り、教育活動の一つとして、2種類のパンフレットを作成した。そして、24年度の本学の広報活動にも活用されることになった。教職大学院・実習校・学生・教育委員会・教員等の連携の成果であると考えます。